

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月11日

事業ID:2024014681

事業名:首都圏及び関東の海なし県に住む
子どもにむけた海洋教育(海と日本2024)

団体名:一般社団法人日本海洋アカデミー

代表者名:理事長 鈴木 茂晴 印

TEL:046-882-1286

事業完了日:2025年3月31日



■契約時

事業費総額	:	9,820,000 円
自己負担額	:	1,970,000 円
助成金額	:	7,850,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	10,277,240 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	2,427,240 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,850,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.海洋アカデミー
(1)時期:通年(10回)
(2)場所:神奈川県三浦市、神奈川県藤沢市
(3)参加者:300名(小学校)
(4)内容:海洋教育プログラム

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.海洋アカデミー
(1)時期:通年(14回)
(2)場所:神奈川県三浦市、神奈川県藤沢市
神奈川県逗子市
(3)参加者:260名(小学校)
(4)内容:海洋教育プログラム



(3)成功したこととその要因

海洋アカデミー(海洋教育プログラム)を実施できたことで、学校や日常では、中々学べない・体験できない経験を
提供でき、海に対して興味関心を高めることができたと感じます。数々の感動と感激のお声をいただきました。
また事業2を予定していた団体様にキャンセルが生じたため、事業変更申請を提出して事業1に転換でき、当初予
定していた10回から14回実施できました。

(4)失敗したこととその要因

所有しているアクティビティの数および定員に限りがあると同時に、参加者にゆったりと体験できる時間を確保するため、予定参加人数を下回った。

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書をご参照ください。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2.海の学校(福祉プログラム)
(1)時期:通年(10回)
(2)場所:神奈川県三浦市、神奈川県藤沢市
(3)参加者:200名(障害児童、不登校児童)
(4)内容:海での福祉プログラム



(2)事業内容の実施(完了)状況

2.海の学校(福祉プログラム)
(1)時期:通年(6回)
(2)場所:神奈川県三浦市、神奈川県藤沢市
(3)参加者:90名(障害児童、不登校児童)
(4)内容:海での福祉プログラム

(3)成功したこととその要因

開催場所を神奈川県三浦市のシーボニアマリーナに限定することなく、江の島ヨットハーバーも開催地として計画したことで、近隣以外の団体様をご案内することができました。また乗船体験のみではなく、団体様の特徴をつかみ提案に結びつける内容にアレンジできております。例えば、乗船しながらアートを書く・楽しむ空間づくりを演出いたしました。

(4)失敗したこととその要因

予定していた団体様に急遽のキャンセルがでてしまい、当初予定していた10回から6回の実施となりました。ただ上述でも記載しました通り、事業変更申請を経て事業1に回数の変更を展開することができたことは、良い事例として今後も視野にいれていきます。

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書をご参照ください。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容



(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

複数の体験プログラムを通じて総参加人数500名を目標とします。

海洋教育プログラム

関東地域の小中学校団体に向け教育カリキュラムとして、海を知り体験するプログラムを提供し、一般参加者にも拡大します。海なし地域(神奈川県内陸部・山梨県・群馬県・埼玉県など)にも積極的にアプローチし体験学習の輪を拡大します。これまでに延べ7,000人以上の子供たちが受けたプログラムが、青少年の健全な成長と生涯忘れない経験を提供し、海への理解を深める手助けとします。

グローバルコンピテンスに長けた人材育成

若者にヨットと海洋文化を身近に感じさせ、国際的なコンピテンスを養成します。ヨットの体験を通じて、国際的なコミュニケーションスキルを磨いたグローバルリーダーを育てます。また、セーリング体験を通じてマリンスポーツの楽しさと海への興味を高め、気象や気候変動についても学びます。

生涯スポーツとしてのマリンスポーツ普及

海から陸を見るセーリング体験を通じて、海洋とマリンスポーツに親しむ機会を提供します。風の力で動く原理やクルーの役割、海洋の仕組みを学び、マリンスポーツの楽しさと海への興味を高めると同時に、気象や気候変動についても啓発します。さらに、セーリングクルーザー体験を通じて将来へとつなげます。

海での福祉プログラム

障害児童、難病児童、引きこもり児童、ハンディキャップ等の団体に向けて、海を活用した福祉プログラムを実施します。これにより、海洋の癒しと楽しみを提供し、社会的な包摂と福祉の向上に寄与します。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	462	文字数チェック	OK
2024年度の事業を通じて、約350名の子供を対象に対象プログラムを提供できました。(引率の方を含む大人の参加は約120名) 陸上ではできない海での体験をすることで、海から陸をみる新たな視点や感覚、そして感動を提供し、海への興味関心を向上させるアプローチができたと感じます。 また事業で定められた内容だけではなく、気象や気候変動に関しての海洋学習も適宜取り入れてアレンジいたしました。例えば「食の循環・リサイクル」「薄膜太陽光／再生可能エネルギーの活用」「藻場の再生／カジメの苗植え」「ビーチクリーン」等々、SDGsに関連するコンテンツを組み合わせ、学習のきっかけにも寄与できたと感じます。現在の小学生は学校でもSDGsにまつわることを学んでいる素地がありますので、教育にマッチングするようにアレンジすることを心掛けております。 海に囲まれた日本であるにも関わらず、「海離れ」がまだまだ深刻な問題になっています。青少年が「海を正しく理解し、尊重し保護し、楽しむ文化」を育み次の世代に繋げることに貢献していく所存です。			

3.事業実施によって得られた成果

日常では中々体験できないコンテンツを実際にやってみることで、海への興味関心を高め、海を身近にそして自分に捉えるきっかけを与えることができたと感じます。海という環境を肌で感じることや感動が参加者に深くインプットすることで、海に対する見方や考え方が変わると思います。 そのことにより将来の人生設計において、海というコンテンツを連想する方向性を生み出す可能性が広がると信じています。 また海の興味だけではなく、海の環境問題にも知見が広がり、学校や世の中のSDGs関連における事象に好奇心を持ち考えて、自分から行動することに繋がると思います。 さらには、福祉関連の団体様はこのような体験プログラムについて、ハードルが高いものだとして認識している引率の方がほとんどです。その障害を超えて、かけがえのない体験を提供できることで、より高い感動と感激を贈ることができていると感じます。知人や関連団体にぜひ紹介していきたいと、好評のお声も多くいただいております。
--

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

募集の申請を第1回目ではなく2回目で提出しておりました。 2回目の申請ですと、審査結果が4月以降となり、事業開始への準備段取りや告知が後手となることが生じます。また実施可能期間も5月からとなることで短くなり、総じてメリットがないことが課題として挙りました。 2025年度の申請から第1回目の申請として提出して、事業のスケジュール管理を計画的に進めていけるよう改善していく。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

日本財団ロゴ入りハンザディンギーセール8枚 募集用チラシA4×9種類 1000枚 募集用ポスター 100枚 プログラム企画書 報告書 ウェブページ
--



(2)事業完了時の成果物名称

日本財団ロゴ入りハンザディンギーセール8枚 募集用チラシA4×12種類 1200枚 プログラム企画書(事業内容毎 各100部) 報告書 ウェブページ
--

(3)未作成となった要因

オンラインや郵送での告知をメインとしたため、ポスターの作成はしなかった。
その代わり、チラシや企画書のボリュームを増やし、宣伝告知に活用するようにした。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください↓

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/gra_gui_32.pdf
(なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

<https://fields.canpan.info/report/detail/32082>

<https://fields.canpan.info/report/detail/32083>

<https://fields.canpan.info/report/detail/32084>

<https://fields.canpan.info/report/detail/32091>

<https://fields.canpan.info/report/detail/32092>

2024年度 収支計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

事業ID:2024014681

事業名:首都圏及び関東の海なし県に住む子どもにむけた海洋教育(海と日本2024)

団体名:一般社団法人日本海洋アカデミー

費目	予算額 (A)	決算額 (B) 自動計算	助成金返還見込額 自動計算(A-B)
① 日本財団助成金収入	7,850,000	7,850,000	0
② 自己負担	1,970,000	2,427,240	
③ 収入合計	9,820,000	10,277,240	

[illegible]

※予算額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じます。

【返還見込額の発生有無】

無し

※「有り」の場合は予算額に対し決算額が下回っているため、返還金が発生する可能性があります。

【一致確認】 ※NGが出た際は、入力間違っているかもしれませんので該当項目を再確認してください。

OK

OK

セルフチェック項目（プルダウンで選択）

